

M・J プロGRESS

作文・小論文

本書は高校入試で出題される作文と小論文の書き方を学習するテキストです。

縦書きの「作文講座」、横書きの「小論文講座」の2つの講座で構成されています。「小論文講座」は横書きの為、裏表紙側からページが始まる作りになっています。

「作文講座」はテーマに従い二百字から三百字の作文を書くことにより、考える力と表現力を養成します。

「小論文講座」は推薦入試などで求められること多い小論文を練習します。(詳しくは小論文講座の「はじめに」※P79をお読みください)

作文、小論文とも書いた文章の添削を受けることができます。(下記ご案内参照)

また多様な傾向の入試問題に対応する力をつけるための付録「長文読解記述問題」、「聞き取り問題」がっています。

「長文読解記述問題」は長い文章を読んで、設問に記述で答える練習をします。

「聞き取り問題」はWeb付録(下記ご案内参照)となっており、音源を聞いて設問に答える入試の聞き取り問題を練習します。

本書をじっくり時間をかけて取り組んでいき、入試に向けての国語力を大いに高めてください。



Web付録の聞き取り問題は、
<http://ckt-hanbai.co.jp/mj-progress-sakubun-syouronbun-furoku-kikitorimondai/>のページからご利用ください。



※「作文講座」「小論文」の添削サービスについては、ホームページの「添削講座のご案内」
<http://ckt-hanbai.co.jp/tensakukouza-guide/>をご確認ください。
添削をうける場合は、上記ページより専用の原稿用紙をダウンロードしてご使用ください。

作文講座

20	自分の価値基準を見つめ直す	42
19	友達との関係で学んだこと	40
18	和の精神	38
17	あいさつの力	36
16	運動会での出来事	34
15	大切だと思うこと	32
14	筆者の意見について	30
13	自分の言いたいことが伝わらなかった経験	28
12	携帯電話を使うときの注意点やマナー	26
11	ボランティア活動	24
10	奥の細道を読む	22
9	資料を読み取る	20
8	読書と私	18
7	言葉と私	16
6	立場を決めて書く	14
5	約束	12
4	感動したこと	10
3	まんがを読んで考える	8
2	マナー	6
1	信頼	4

小論文講座	80	
はじめに	79(1)	
目次	78(2)	
知って得する！ 小論文の基礎知識	77(3)	
頻出テーマとキーワード	72(8)	
基本編		
1 テーマ型「自分らしさ」	68(12)	
2 課題文型「自然環境に対する理解」	67(13)	
3 資料型「食料問題」	65(15)	
実践編		
実践編①		
1 テーマ型「高校生活の目標」	62(18)	
2 課題文型「古典を読むことの意義」	61(19)	
3 資料型「少子化問題」	59(21)	
実践編②		
1 テーマ型「人とのかかわり」	56(24)	
2 テーマ型「ことばの大切さ」	55(25)	
3 テーマ型「国際理解を深める」	54(26)	
4 課題文型「世間の常識を疑う」	53(27)	
5 課題文型「高度に進んだ学問」	51(29)	
6 課題文型「創造すること」	49(31)	

付録

長文読解記述問題	47(33)	
----------	--------	--



Web付録
聞き取り問題



※<http://ckt-hanbai.co.jp/mj-progress-sakubun-syournbun-furoku-kikitorimondai/>のページからご利用ください。

聞き取り問題

-
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|------|------|-----|------------|-----------|--------|----|----------|-------|---------|-------|------------|----------|---------|-----------|--------|------------|
| 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| インタビュー | 将来の夢 | 睡眠時間 | 地域活動 | 紙芝居 | 1年間で出るごみの量 | コミュニケーション | スピーチ原稿 | 短歌 | 夏休みの研究課題 | 塩の作り方 | なんでも相談室 | 高校説明会 | 動物園の職員との電話 | 漢字が書けない時 | 留学生の歓迎会 | 災害がおこったとき | 文化祭の展示 | 交流会のための打合せ |

作文講座 3 …… まんがを読んで考える

課題

次のまんがを読んで考えたことを、自分の体験や見聞をもとに、三百字以内の文章で書きなさい。
 (指定字数の九割以上を目標に書きましょう)

① せっかく冷房しているのに窓が開いているぞ！



② もつたないなあ。ちゃんとしておかないと！



③ (じびくするぞ……) わあ、さむーい！



④ なるほど。だから開けたのか……。



テーマをつかもう！

《ストーリー》

ある夏の日のこと、男の子が電車に乗ってきた。電車には冷房が効いていて、涼しくてとても気持ちがいい。でも、せっかく冷房なのに窓が開けっ放しに！ このおじさんが開けたのかな？ 「もつたないなあ」と思った男の子は窓を閉める。ところが、しばらくして体のほりもおさまると、だんだん寒くなってきて、たまらなくなる。今度は、男の子が窓を開けることになり、どうしてはじめて窓があいていたのか分かった。

問題提起と意見

まんがを読んで何を思おうがそれは人の勝手だから、普通の作文なら思ったことを自由に書いてかまわない。

ただし、課題作文の場合は、このマンガのメッセージを正しく読み取り、それについてあなたがどのようなことを考え、今後どのようにすべきなのか、自分の意見を書かなければならない。だから、「おじさんに笑われてむかつく！」などとは決してしないように！では、このストーリーのメッセージについて考えてみよう。

男の子は、最初、「もったいないなあ」と思っただけで窓を閉めるが、しばらくすると寒くてたまらなくなり、仕方なくもう一度窓を開ける。

乗客に心地よく乗車してもらおうというサービスそのものはありがたいことだが、窓を開けないと寒くてたまらないほどの温度設定は考え直すべきだ。

電車を動かすにも、エアコンを使うにも、たくさんエネルギーが使われている。サービスする側、される側。私達は、双方の立場で省エネを心がけ、限りあるエネルギーを大切にしていかなければならない。

組み立ててみよう！

「体験・見聞」

この課題で注意しなければならないのは、まんがのストーリーそのものからは離れて書くこと。「まんがを読んで考えたことを、自分の体験や見聞をもとにして書く」よう指示されている。

まずは、「たしかに便利で快適なサービスだが、もったいないなあ」と思った体験や見聞を思い返してみよう。過剰な包装やレジ袋、自動販売機の照明、無人のエスカレーターなど、身近なことで思い当たることがあるだろう。そのような出来事から、最も印象的なものを一つ選んで挙げてみよう。

「意見感想」

一段落に取り上げた出来事で、どのようなことを思ったのかを述べる。そして、今後どのようにしていかなければならないのか、あなたの意見を表現してみよう。

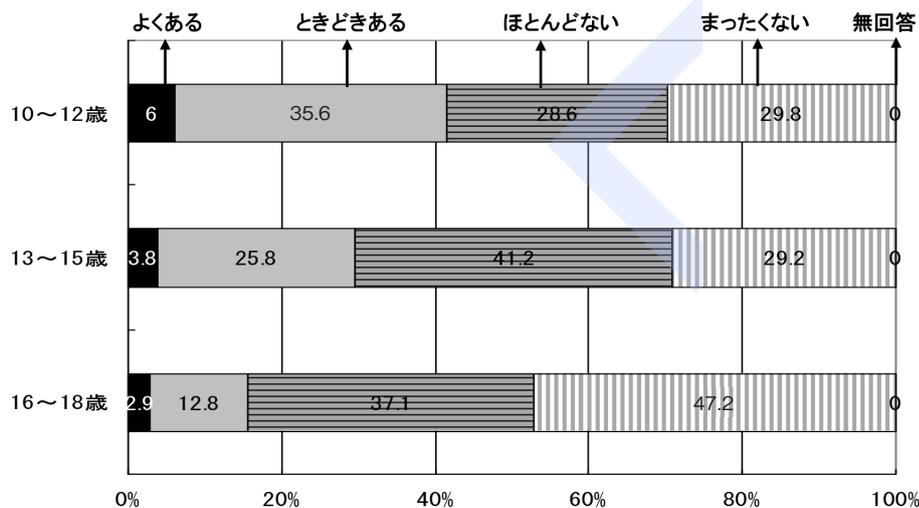
課題

次のグラフは、内閣府が行った「第五回情報化社会と青少年に関する意識調査」の結果の一部である。グラフからは、ボランティア活動やリサイクル運動への参加頻度は、世代によって変化していることが分かる。このグラフを参考にして、「ボランティア活動やリサイクル運動への参加」というテーマで、あとの【注意】にしたがい、あなたの考えを書きなさい。

【注意】

- ・ 原稿用紙の正しい使い方にしたが、三百字以内で書くこと。
- ・ 原稿用紙には題名や氏名は書かず、本文から始めること。

ボランティア活動やリサイクル運動への参加頻度(年齢別)



(内閣府『第五回情報化社会と青少年に関する意識調査』から作成)

書き方のポイント

三百字程度の作文の場合、二〜三段落でまとめるのが理想です。第一段落では、グラフを見て気がついたこと、第二、三段落では、それについて感じたことや考えたことを書きます。

「一段落」

グラフを見て気がついたことを書きましょう。

たとえば、

- ① どの世代も「よくある」の割合が低い。
 - ② 世代が上がるごとに「よくある」「ときどきある」の割合が減っている（「ほとんどない」「まったくない」の割合が増えている）。
などが挙げられます。このような気づいたことの中から一つ選びましょう。あれもこれもと書くと、気づいたことだけで終わってしまいます。
- 二、三段落の「考え」や「意見」をしっかりと述べましょう。

「二、三段落」

一段落に取り上げたことに対する「感想」を率直に述べてから、「ボランティア活動やリサイクル運動への参加」をすることの大切さについて考えましょう。自分自身の体験や見聞を取り上げると説得力が増します。そして、今後はこのような活動や運動に、どのように取り組もうと思うのか、自分自身の姿勢を表現してみましょう。

このような資料型の課題では、どのような観点で書いても構いません。しかし、今回の「ボランティア活動やリサイクル運動への参加」のように、誰もがその価値を認めているようなテーマに関しては、「参加する必要はない」などと否定的な意見で書くことはできません。つまり、この調査結果に対してどのような印象を持つかが、結論としては「積極的に参加していこうと思う」と前向きな姿勢でまとめましょう。

組み立てよう（作文メモを作る）

- ① 資料から気づいたことを決めよう。

- ② そのことから、考えたこと、感じたことをまとめよう。

- ③ 今後、自分はどうするのかまとめよう。

小論文講座



※「作文講座」「小論文」の添削サービスについては、ホームページの「添削講座のご案内」

<http://ckt-hanbai.co.jp/tensakukouza-guide/>をご確認ください。

添削をうける場合は、上記ページより専用の原稿用紙をダウンロードしてご使用ください。

■はじめに

近年の高校入試では、推薦入試や特色選抜方式の募集が増えてきており、その入試教科として小論文が採用されていることが多い。高校入試で出題される小論文では、与えられたテーマに対して、どのように考え、どのようにしていこうと思うのか、自分の意見を書かなければならない。限られた時間内に書きあげるためには十分な練習が必要なのは言うまでもない。

入試本番までに、よく出題されるテーマについての知識を増やし、解答の方向性を決めておくことが必要だ。また、減点されない小論文の書き方について身につけておくことと安心して本番に臨める。本書で万全の準備をし、志望校合格を勝ち取ってほしい。

■本書の使い方

本書は、前半が《知識編》、後半が《演習編》の二部構成になっている。

《知識編》では、「小論文の基礎知識」や「頻出テーマとキーワード」についてまとめられている。初めに目を通しておき、必要なときに確認しよう。

《演習編》では、順を追って、実際に小論文に挑戦する。本書は、すべての課題で、添削指導を受けることができる。小論文を上達させるためには、実際に書いて添削指導してもらうのが最も良い方法だ。

小論文が初めての人や苦手な人は、知識を深めることができ、長文を書く練習になるので、ぜひすべての課題に挑戦してみよう。時間が限られている人は、それぞれの入試スタイルに合わせて選択して書いても構わない。

基本編

テーマ型、課題文型、資料型の小論文について演習する。「基本編」では、ヒントとして、書くべき内容を示しているのので、指示に従って書けば、小論文が初めての人や苦手な人でも、無理なく書けるようになっている。

実践編①

「基本編」で学習した、テーマ型、課題文型、資料型の小論文について実践的に演習する。各課題には、原稿用紙に清書する前のガイドがついている。サブノート形式になっているので有効に利用しよう。

実践編②

近年、推薦入試や特色選抜入試でよく見かけるテーマ型（400字）と課題文型（600字）の小論文に的を絞った出題となっている。これらの課題にもガイドがついているので有効に活用しよう。

付録

長文読解記述問題

長文についての読解・記述問題について演習する。難関校の入試を想定して取り組んでみよう。

目次

■はじめに	79(1)
■目次	78(2)
■知って得する！小論文の基礎知識 小論文は段落構成で決まる！ 課題条件と客観的事項に気をつけて！	77(3)
■頻出テーマとキーワード ◎「言葉」について ◎人間と自然 ◎現代社会 ◎高校生活	72(8)
■基本編 ◎400字小論文 課題1 テーマ型「自分らしさ」 課題2 課題文型「自然環境に対する理解」 課題3 資料型「食料問題」	69(11)
■実践編① ◎600字小論文 課題1 テーマ型「高校生活の目標」 課題2 課題文型「古典を読むことの意義」(要約付き) 課題3 資料型「少子化問題」	63(17)
■実践編② ◎400字小論文 課題1 テーマ型「人とのかかわり」 課題2 テーマ型「ことばの大切さ」 課題3 テーマ型「国際理解を深める」 ◎600字小論文 課題4 課題文型「世間の常識を疑う」 課題5 課題文型「高度に進んだ学問」 課題6 課題文型「創造すること」	57(23)
付録	
■長文読解記述問題	47(33)

■知って得する！小論文の基礎知識

小論文は段落構成で決まる！

「論文」とは、学問の研究成果などを論理的な手法で書き記した文章のことである。入学試験などで、何かしらのテーマを与えられ、論述する論文の一つの形式として「小論文」がある。「小」と付いていても「論文」には変わりなく、論理的に書く必要がある。そのためにもっとも大切な手法が「段落構成」である。

例えば、皆さんが聴いている音楽の曲にも定番の構成というものがあり、それぞれの「段落」を組み合わせると一曲が完成する。

イントロ（前奏）→A メロ（曲の最初のメロディ）→B メロ（A メロとサビを繋ぐ重要な部分）→サビ（曲の中で、最も盛り上がる部分。曲の主張そのもの）→間奏（フレーズの切れ目に入る部分）→C メロ（最後のサビに続く旋律）→アウトロ（後奏）

このように構成することで全体がまとまり、曲に説得力が生まれるのである。

論文の世界でも基本的な考え方は同じだ。600字程度の小論文の場合、その構成はもっとシンプルで、大きく「序論」「本論」「結論」の三部構成で書くのが基本となる。では、それぞれの段落の役割を説明していこう。

☆三部構成とその役割

《序論》

テーマを提示し、これから何を論ずるのか「問題提起」をおこなう構成要素。課題のテーマを簡潔に要約してから、それに対して自分はどのような立場で考えるのかを打ち出す。ここで結論を言ってしまうても構わない。

《本論》

序論で問題提起したことを自分自身の観点で考察する構成要素。自分が体験したことや見聞したことなどの具体的な事例を挙げ、それをもとに考察をおこなうので二段落構成になる。

《結論》

「序論」において提起した問題に対する結論を述べる段落。どのように取り組むべきなのか明らかにしよう。

・段落は二種類ある！

段落には、「形式段落」と「意味段落」がある。「形式段落」は表記上の段落のことであり、「意味段落」は、いくつかの形式段落が集まり、ひとつの意味を持ったまとまりのことである。

・起承転結はダメ？

「起承転結」のまとめ方における「転」は、意外な展開で変化をつけることで面白みを増やすための段落だ。小論文のように論理的に書く文章には向かない。

☆小論文を体感！

これはちょっと極端な課題だけれども、小論文では、自分にとっては「どうでもいいのに……。」と思うことについても解答を求められる。そのような問いにも「そんなのどっちでもいいじゃない！」と正直な気持ちを書いてしまってはダメだ。小論文とは、自分の気持ちを書く作文ではなく、課題に対する答えを論じるものなのだ。それでは、この課題を「賛成」と「反対」の立場から書いてみたので、小論文を体感してほしい。

課題

ある人が「私はチョコはビターにかぎる」と述べている。
これについて、あなたの意見を述べなさい。

《賛成の場合》

【序論】この人は、「チョコはビターにかぎる」と述べているが、私もそう思う。

【本論】たしかにミルクチョコもおいしいが、私はビターチョコのほろ苦さがたまらない。チョコとはカカオを楽しむものだからあまり甘すぎないほうがいいのだ。

【結論】だから、私もこの意見に賛成だ。

《反対の場合》

【序論】この人は、「チョコはビターにかぎる」と述べているが、私はそうは思わない。

【本論】たしかにビターもたまにはいいが、勉強に疲れたときに食べる甘いミルクチョコは、頭の疲れを癒してくれる。チョコとは甘さの中のカカオとミルクのハーモニーを楽しむものなのだ。

【結論】だから、私はこの意見に反対だ。

賛成の立場でも反対の立場でも意見を述べることができると体感できただろうか。どちらの意見にも、自分がそのように思う理由がきちんと書けている。小論文では、どちらの立場で意見を述べてもかまわない。どうしてその立場にしたのか、この理由が読者を納得させられるかどうか重要なのだ。

課題条件と客観的事項に気をつけて！

自由作文とは違い、小論文にはいくつかの課題条件があり、それに従って書くことが必要だ。もちろん課題条件に則していない場合は減点となる。また、表記・表現や原稿用紙の使い方などの間違いは客観的に判断できるため、なんらかの減点となる。細心の注意を払って書くようにしよう。

☆課題条件

《字数制限》

もっとも注意しなければならない条件の一つ。字数が少ないと内容の良し悪しに関わらず大きな減点となる。

○字以内で⇒指定字数の9割以上

○字程度で⇒指定字数の1割増減の範囲

で書いていれば減点されることはない。

基本編

課題1 テーマ型「自分らしさ」

「自分らしさ」というテーマで、あなたの考えを 400 字程度（横書き）で書きなさい。テーマや氏名は書かないで、本文から書き始めること。

◆ステップ1◆ 「自分らしさ」を見つけよう！

第一段落で、自分にどのような「自分らしさ」があるのか簡潔に述べてみよう。家族や友人から言われたことや自分自身で感じていることを参考に考えてみるとよい。

- * チームをまとめて、目標に向けて推進していくのが得意だ。
- * 一度決めたことは地道にコツコツと努力する性格だ。

◆ステップ2◆ 体験・見聞を挙げよう！

第二段落では、第一段落で述べた理由を裏付けるような自分自身の体験を具体的にあげよう。自分の性格を象徴するような出来事や自分の意外な性格について気付いた出来事など、できるだけその状況が分かるよう具体的に書いてみよう。

- * 生徒会活動で、文化祭の成功のため力を尽くしたこと。
- * 小学生の頃から続けている剣道で、大会に向けて精進したこと。

◆ステップ3◆ 体験・見聞をもとにして考えよう！

第三段落では、取りあげた自分の性格を今後どうしていきたいのか自分の姿勢を示そう。たとえば、「自分の性格のよいところをもっと伸ばしていきたい。」や「自分の性格のよくないところを改善していきたい。」など、前向きな姿勢が表現できるとよいだろう。「自分らしさ」を今後どのように生かしながら生きていきたいのか、今後の展望を示し、まとめてみよう。

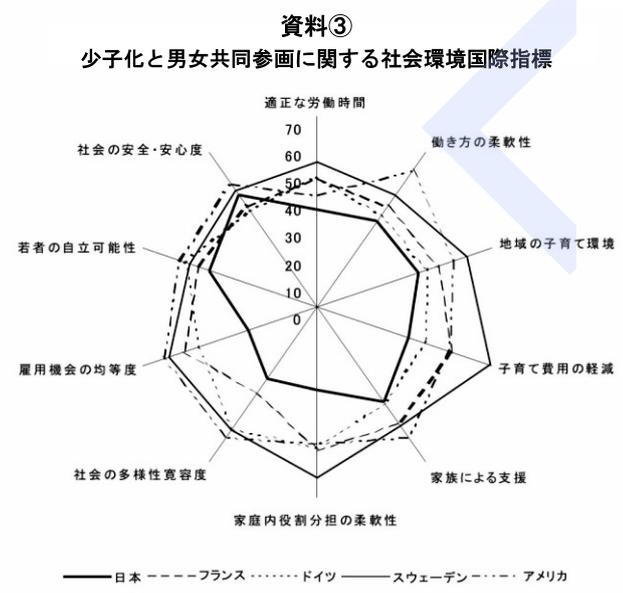
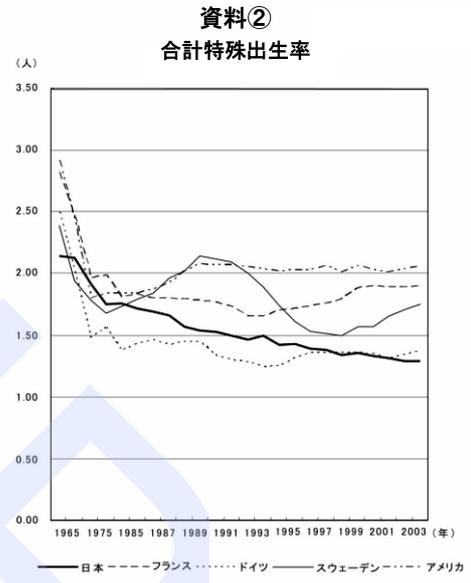
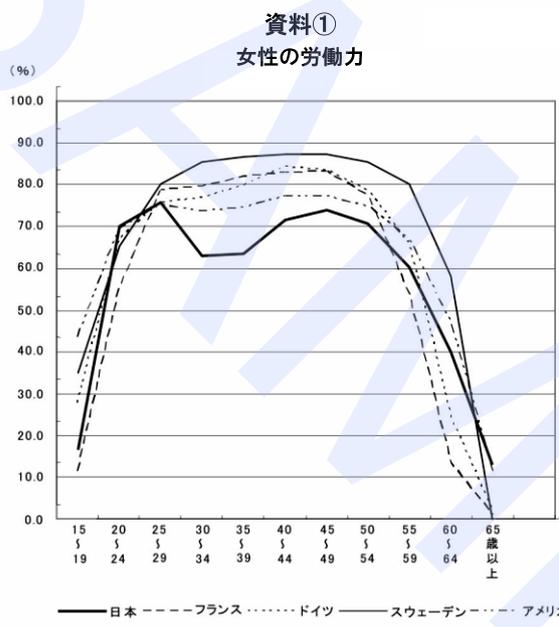
- * この経験を通じて、コツコツ努力することの大切さを実感した。現在も、来年の大会でさらなる結果を残すことを目標に稽古に励んでいる。
- * 高校生になってからも、協力することの大切さを胸に、人に喜んでもらうことを生きがいにしていきたい。

では、原稿用紙に書いてみよう！

実践編①

課題3 資料型「少子化問題」

次の資料①②③をもとに、現在、日本で問題になっている「少子化」について、あなたの意見を述べなさい。
 (注意) 正しい原稿用紙の使い方、600字程度(横書き)で書くこと。



◆ステップ1◆ 3つのグラフを読み取ろう！

資料① 女性の労働率が他の国と比べ顕著に減っているのは、どのような年齢層なのか読み取ろう。

資料② 日本の出生率は、他国の国と比べてどのようになっているのか読み取ろう。

資料③ どのような項目で日本の割合が低いか読み取ろう。

①

②

③

◆ステップ2◆ 問題を提起しよう！

資料②から、日本の出生率が年々下がっていることを指摘し、このままの状況が続けば日本がどのようになるのか、予想される事態や影響をあげ問題提起としよう。

◆ステップ3◆ 少子化の原因について分析しよう。

資料①、資料③からわかる日本の現状やその原因について言及しよう。

◆ステップ4◆ どのような対策ができるのか自分の意見をまとめよう！

政府が行っている施策などを取り上げ、今後、どのような社会作りが必要なのか、自分なりの意見を述べよう。

では、原稿用紙に書いてみよう！

M・J プロGRESS

作文講座

解答・解説

作文講座 3 …… まんがを読んで考える

【評価の観点】

まんがのメッセージを適切にとらえることができているかどうか。
適切な体験・見聞を挙げ、今後どのように対処していくべきなのかが述べられていくかどうか。

(作文例)

に	ビ	ユ	ける	林	ス	だ	り		さ	ぐ	紙	ミ	なる	フ
配	ス	ー	る	伐	の	け	、	た	れ	に	で	の	こ	ア
慮	に	ス	現	採	あ	い	後	し	な	食	提	量	と	ー
した	切	リ	状	が	り	で	始	か	か	べ	供	だ	が	ス
店	り	ユ	を	進	方	大	末	に	っ	て	さ	。す	あ	ト
選	替	ー	見	み	に	量	も	、	た	し	れ	。そ	る	フ
び	え	ス	直	、	は	の	大	紙	こ	ま	る	。の	。そ	ー
を	い	、	す	地	考	ゴ	変	の	と	う	が	、	れ	ド
し	く	リ	た	球	え	ミ	が	容	に	の	、	店	は	を
な	と	サ	め	の	余	が	出	器	な	で	、	内	食	利
け	も	イ	に	環	地	が	る	や	。し	、	ほ	で	べ	用
れ	ば	ク	は	境	が	こ	の	包	か	、	ん	食	紙	す
ば	な	ル	提	問	あ	の	よ	装	し	、	の	の	の	と
なら	ら	が	供	題	り	う	う	なら	、	一	数	と	容	い
ない	も	で	者	が	悪	さ	な	清	食	食	分	し	器	つ
。環	環	さ	側	が	し	だ	。サ	潔	食	べ	し	か	や	後
境	境	リ	リ	つ	づ	森	ビ	感	が	あ	利	、	包	の
		デ	テ	づ				あ	ら	用	す		装	ゴ

300字

200字

100字

作文講座 4 …… 感動したこと

【評価の観点】

「感動」というテーマで書かれているかどうか。
感動した体験が書かれているかどうか。
結論に至る根拠があるかどうか。
経験から学んだことを今後の生き方に生かそうとする前向きな気持ちが書かれているかどうか。

(作文例)

あ	り	る	でも	私	も	に	感	り	な	思	て	た	参	私
き	、	こ	も	は	で	な	を	抜	い	っ	も	私	加	は
ら	自	と	あ	、	可	る	感	い	と	た	苦	に	し	部
め	分	を	き	こ	能	こ	じ	た	。希	が	し	は	た	活
ず	を	学	ら	の	事	と	た	。そ	望	、	く	と	。長	の
に	成	ん	め	だ	な	な	。走	の	を	中	、	も	距	練
前	長	だ	ず	と	想	前	る	瞬	持	で	途	苦	離	習
向	さ	。そ	に	い	像	に	前	間	、	何	中	痛	を	の
き	せ	う	が	う	も	は	は	、	こ	度	で	だ	走	一
に	る	の	ん	じ	つ	、	こ	の	上	も	何	っ	る	環
努	の	い	ば	て	か	な	こ	の	な	リ	度	。そ	こ	で
力	だ	っ	れ	、	な	か	の	よ	い	タ	。そ	に	に	、
し	。今	経	ば	無	か	つ	の	う	か	イ	の	自	市	市
て	後	験	や	理	か	つ	の	な	最	ア	道	信	民	民
い	も	が	り	だ	。思	が	う	な	後	し	の	の	マ	マ
ぎ	、	自	遂	と	う	、	が	気	ま	よ	り	な	ラ	ソ
たい	。何	信	げ	こ	ら	私	に	持	で	う	は	か	ソ	ン
。事	も	な	ら	と	れ	に		ち	走	と	っ	っ	に	に

300字

200字

100字

作文講座 9 資料を読み取る

【評価の観点】

資料の読み取り方が正しいか。「ボランティア活動やリサイクル運動への参加」に対する重要性について明確に述べているか。この課題では「ボランティア活動やリサイクル運動への参加」が大切であることに触れているか。

(作文例)

と	う	球	テ	を	こ	く	し	を	は	サ	ま	世	世
思	な	に	ィ	大	れ	さ	ま	と	驚	ィ	っ	代	代
い	ポ	も	ィ	切	さ	ん	し	ら	き	ク	た	が	が
ま	ラ	や	は	に	の	捨	た	先	ま	ル	く	上	上
す	ン	さ	町	し	ゴ	て	。	日	ま	運	な	が	が
		し	を	な	ミ	ら	食	、	。	動	い	上	の
		い	き	け	は	れ	べ	地	は	へ	の	割	の
		ア	活	れ	資	て	物	域	い	の	合	合	に
		活	動	ば	源	い	の	の	け	参	が	増	「
		動	に	な	な	ま	包	清	な	加	え	て	ほ
		に	す	り	の	す	装	掃	い	が	い	い	と
		積	。私	ま	で	。町	や	ボ	い	減	ま	ま	と
		極	は	せ	ん	。限	ペ	ラ	思	っ	い	い	ん
		的	今	。こ	り	汚	ン	ン	い	て	ま	ま	ど
		に	後	の	あ	し	テ	テ	ま	い	ま	ま	な
		参	も	の	る	て	ィ	ィ	す	る	ま	ま	い
		加	く	ボ	る	い	ア	ア	。行	こ	ま	ま	い
		し	の	ラ	資	る	に	に	動	と	ま	ま	い
		よ	よ	ン	源	る	が	参	私	に	ま	ま	い
		う					た	加	私	私	ま	ま	い

300字

200字

100字

作文講座 10 奥の細道を読む

【評価の観点】

課題条件をとらえ、一段落には作者の言いたいことを書き、二段落には自分の意見や感想を書くといった構成になっているか。
作者の言いたいことが適切にまとめられているか。
また、自分の意見を述べる際に、作者の言いたいことをとらえているか。

(作文例)

と	う	り	感	を	な	当	ち	だ	て	と	た	な	芭
思	。私	今	じ	よ	こ	に	が	。芭	と	旅	。自	旅	蕉
う	は	日	取	む	と	好	芭	蕉	旅	立	分	立	は
	芭	ま	っ	む	を	き	蕉	蕉	の	つ	の	ち	本
	蕉	で	た	む	を	だ	の	蕉	旅	前	の	ち	当
	の	作	強	む	感	か	心	蕉	立	の	心	が	に
	衰	品	い	む	じ	ら	湧	蕉	つ	前	が	湧	旅
	え	と	思	む	取	こ	き	蕉	前	の	湧	き	蕉
	な	し	い	む	り	そ	た	蕉	の	心	き	た	蕉
	い	て	が	む	の	、	た	蕉	が	が	た	つ	蕉
	創	評	多	む	だ	訪	た	蕉	湧	湧	つ	よ	蕉
	作	価	く	む	ら	れ	た	蕉	き	き	よ	う	蕉
	意	さ	の	む	う	る	た	蕉	た	た	う	な	蕉
	欲	れ	人	む	。芭	場	た	蕉	人	た	な	気	蕉
	を	て	々	む	蕉	所	た	蕉	で	た	な	持	蕉
	見	い	の	む	が	ご	た	蕉	い	た	な	持	蕉
	習	る	心	む	旅	と	た	蕉	た	か	な	持	蕉
	お	だ	に	む	先	で	か	蕉	か	っ	な	持	蕉
	う	ら	伝	む	句	俳	か	蕉	っ	た	な	持	蕉
	う	わ	わ	む	句	句	か	蕉	た	の	な	持	蕉

300字

200字

100字

小論文講座

記入例と解説

課題1 テーマ型「自分らしさ」

私にとっての自分らしさは、人に喜んでもらうために行動できることにありと考えている。

中学2年生のとき、私は生徒会の役員を1年間務め、大きなやりがいを感じた。そこでは、学校をより明るくしていきたいと考え挨拶運動を提案し推進した。学校内や近所で誰かにすれ違ったとき「おはよう」など笑顔で挨拶をする運動だ。最初は恥ずかしくて挨拶をできない生徒が少なくなかったが、私が先頭に立ち挨拶活動をしたことで、次第にその輪が広がっていき、「学校が楽しくなった」「友達が増えた」など喜びの声をもらうようになった。私は生徒会活動を通して、人に喜んでもらうことに生きがいを感じ、そのため

に行動できることに自分らしさを見出した。

私は高校生になってからも、自分らしさを発揮できる生徒会活動に携わっていくつもりだ。努力を重ね自分らしさを磨きながら、学校をより楽しい場に盛り上げていきたいと思う。

■解説

◆ステップ1◆「自分らしさ」を見つけよう！

第一段落で、自分にどのような「自分らしさ」があるのか簡潔に述べてみよう。家族や友人から言われたことや自分自身で感じていることを参考に考えてみるとよい。

◆ステップ2◆体験・見聞を挙げよう！

第二段落では、第一段落で示した「自分らしさ」を読み手に説明しよう。日常生活や学校生活で体験したことなどから、具体的なエピソードを示してみよう。

◆ステップ3◆体験・見聞をもとにして考えよう！

体験や見聞を根拠として、自分自身の考えを述べよう。「自分らしさ」を今後どのように生かしながら生きていきたいのか、今後の展望を示し、まとめてみよう。

課題3 資料型「少子化問題」

資料②から諸外国に比べて、日本の出生率は大変低いことがわかる。このまま少子化が進めば、社会保障制度が崩壊したり、労働力の減少により国力が低下したりする。

資料①より、日本は出産適齢期の女性の労働力の割合が、諸外国に比べて低くなっていることがわかる。また、資料③では、日本の社会環境が子育てという面で、あまり整備されていないことがわかる。つまり、若い世代の女性が、社会に出て働くことが増えたのににもかかわらず、仕事と子育てを両立できる社会環境が、十分に整備されていないことが少子化の大きな原因の一つなのである。

たしかに、子どもの有無は、それぞれの夫婦が決めることであり、行政が決めるもので



はない。しかし、実際には子どもが欲しくて、経済的な事情や職場環境の不整備により出産できない夫婦もいる。

少子化を少しでも和らげるためには、夫婦が安心して子どもを作ることができる社会環境を作っていくことが必要である。日本政府は、出生力回復を目指す施策を推進しているが、その効果はあまり発揮できていない。それは、子育ては家庭でするものであり、制度の改正だけでは解決が難しいものだからだと思う。つまり、子育ては夫婦、家族、地域が協力してするものであり、その環境を整えなければ根本的な解決にはならないと思う。

つまり、少子化対策は私たち一人ひとりの問題でもあるのだ。安定した幸せな社会を作れるよう、皆で協力していかなければならない問題である。

■解説

◆ステップ1◆3つのグラフを読み取ろう！

資料①から出産適齢期の女性の労働力の割合が下がっていること、資料②から日本の出生率が最も低いこと、資料③から子育てに関する環境が十分に整っていないことなどがわかる。

◆ステップ2◆問題を提起しよう！

資料②から諸外国に比べて、日本の出生率が最も低いことがわかる。このことから、日本が少子化している現状と、今後、少子化が進んだ場合の事態や影響をあげてみよう。

◆ステップ3◆少子化の原因について分析しよう！

日本の社会状況や個人のライフスタイル、日本政府の施策などに触れながら、日本の少子化問題について自分の考えを述べてみよう。

◆ステップ4◆自分の意見をまとめよう！

ステップ3を受けて、私たちができる少子化対策について自分なりの考えをまとめてみよう。